

令和4年度 奈良県立十津川高等学校 学校評価総括表（年度末）

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成、将来の地域を担う人材の育成及び輩出
年度重点目標	1 社会で通用する人材の育成 2 ICT教育の推進 3 働き方改革の推進

1 スクール・ポリシーの内容

対象期間	令和4年4月～令和7年3月
入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 本校で学ぶ強い意志のある生徒 3 相手を尊重し、互いの違いを認め合える生徒 4 集団生活のできる生徒 5 将来の進路について自ら考え、その実現に向け自ら行動できる生徒
教育方針 （スクール・ポリシー） 教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	本校では、十津川の雄大な自然と地域の恵みの中で、スクール・ミッション達成のために以下の教育を行います。 1 生活面、学習面において、生徒一人一人に合ったきめ細かな指導を行い、基本的な生活習慣の定着に基づく確かな学力の育成に取り組みます。 2 生徒一人一人の興味関心に応じた科目選択ができるカリキュラムを編成し、学校の特色を活かした学校設定科目を開発して専門性を深める教育を行います。 3 多様な学習に取り組み、生徒自ら課題を見つけ、自ら実践し、ICT機器を活用して考えを表現できる力を育成します。 4 生徒や地域住民の生命と未来を守るため、防災教育及びキャリア教育を推進します。 5 規律ある集団生活を通して、規範意識やコミュニケーション能力を育成します。 6 小中高の連携、ボランティア活動など地域と共にある学校づくりの活動を通して、自尊感情や自己有用感を涵養します。
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成に努めます。 1 人とのつながりを大切にすることを基に、地域への愛着や誇りをもって地域に貢献しようとするができる。 2 卒業後も向上心をもって意欲的に学び続けることができる。 3 正しい判断力を身に付け、自らの進路を切り開くことができる。 4 自然災害から身を守り、他人や地域の安全を支えることができる。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはくむ	自己有用感の醸成	・アンケート調査で「私のことをわかってくれる友だちがいる」と回答する生徒の割合70%以上 ・アンケート調査で「私は保護者や家族から大切にされている」と回答する生徒の割合70%以上	・アンケート調査で「私のことをわかってくれる友だちがいる」と回答する生徒数が40人（60%）以上 ・アンケート調査で「私は保護者や家族から大切にされている」と回答する生徒数が40人（60%）以上	各項目、40人以上の生徒が「そうである」と回答し、目標は達成できた。	生徒同士が寄り添いながら生活している姿を目の当たりにすることが多かった。	先生方も引き続き一人一人の生徒理解にと話していただきたい。	年2回（年度初め・年度末）アンケートを実施し、生徒の気持ちを汲めるよう努める。
	望ましい食習慣の確立	・「食習慣」に関する保健だより等を年1回以上発行 ・朝食摂取率80%以上	・「食習慣」に関する保健だより等を1回発行 ・アンケートで「朝食を摂取している」と回答する生徒数が45人以上	・「食習慣」に関する保健だよりは目標数を超過して発行できた。 ・朝食を毎日食べていると回答した生徒は47人であり、目標を達成できた。	今年度の目標は達成できたが、未回答者が5人いたため、割合的には77%である。令和6年度末までに80%以上の生徒が毎日朝食を食べるようにしたい。	朝食の摂取率は改善傾向にあるが、80%以上を目指してほしい。	朝食の効果、朝食の重要性に焦点を当てた保健だよりを発行し、保健・体育の授業や家庭、またSHR等を用いて生徒に周知し、朝食摂取を習慣づけられるよう取り組む。
	望ましい運動習慣の確立	アンケート調査で「運動することが好き」と回答する生徒の割合80%以上	アンケート調査で「運動することが好き」と回答する生徒数が50人以上	運動することが好きであると回答した生徒は35人であり、目標に届かなかった。	授業や行事において、主体的に取り組み、また楽しんでる生徒が多いことに反し、運動することが好きな生徒が想像以上に少なかった。	体育大会では積極的な生徒の様子が見られた。	アンケート結果より、体育行事を楽しんでいる生徒は多いことが分かった。体育大会の種目や授業を継続的に工夫し、「体を動かすことが楽しい」という経験を多く積ませることで、「運動することが好き」という回答に転じる生徒が増えるよう取り組む。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ	主体的・対話的な学びの実現に向けた授業改善	生徒の目標達成度平均70%以上	アンケートでの自己評価により、目標達成度平均70%以上	「どのくらい主体的に取り組むことができたか」の問いに対して、70%以上が23.8%、60～70%が19%、50～60%が38.1%、50%以下が19%という結果であった。	学習指導要領の改訂に伴って、授業の展開方法も変わってきており、それぞれの授業で多くの工夫を見ることができた。	ICTを活用した考える授業を進めてもらいたい。	評価も含めた指導計画を作成し、より効果的に指導と評価の一体化を推進し進めることができるよう促す。
	少人数クラス・選択授業の充実	生徒の授業満足度平均70%以上	アンケートでの自己評価により、目標達成度平均70%以上	満足度70%以上と解答した生徒は88.1%であった。	希望進路の変更により選択を間違ったと感じる生徒は0ではないが、概ね積極的に授業に取り組むことができていた。	少人数の利点を活かして、対話的で深い学びを実践してほしい。	より充実した授業展開ができるよう授業研究や研修の機会を増やしていく。
	ICTを活用した教育の推進	・ICTを活用した授業時間外の学習時間1日1時間以上 ・生徒の情報活用能力の向上80%以上 ・教員のICT指導力の向上80%以上	・生徒の情報活用能力の向上75%以上 ・教員のICT指導力の向上75%以上	・ICT活用能力の向上を感じた生徒は59.5%であった。教員も授業での情報端末利用を余儀なくされており、概ね教員の指導力は向上した。 ・教員のICT指導力の向上は66.7%に留まった。	・1年生は抵抗なく端末使用に慣れ親しんでおり、活用能力は1年で大きく向上した。教員中の指導力のばらつきは感じられるが、上手く活用できている教員は多いと感じる。 ・年間3回の研修を企画し、情報提供を心掛けたが、指導力の定着にはもう少し時間を要する。	6年度末の目標達成に向けて、教員の指導力が向上できる研修をお願いしたい。	押しつけではなく、生徒の能力や学習の効率上がるような情報機器の活用について研修を重ねる。
3. 働く意欲と働く力をはくむ	インターンシップの充実	アカデミック・インターンシップを含むインターンシップ参加率50%以上	アカデミック・インターンシップを含むインターンシップ参加者15人以上	目標を達成し、値を上回ることができた。3年生の在学中参加率は34.6%であった。	一部の生徒が複数の事業所に参加するなど、積極的な活動が目立った。	生徒の要望に応えられるよう、継続してほしい。	効果がより高まるよう、実施日数の長期化を目指す。
	産業界との連携の推進	「出前授業」「現地研修会」に協力いただいた企業数20社以上	協力企業2社、協力学校2校以上	協力企業2社、協力学校3校と目標を達成した。	目標は達成したが、生徒アンケートでは「他の企業、学校にも行きたかった」という回答もあった。	進路実現に繋げてほしい。	専門分野（上級学校）、業種（就職）など、生徒のニーズを捉えながら、研修先を選定する。
	キャリア教育の推進	キャリアパスポート活用率の向上	キャリアパスポート活用率50%以上	活用率は50%に届かなかった。	様式のデータ化と周知が遅かったため、活用機会が少なかった。	積極的な活用をお願いしたい。	情報（データ）の共有から、よりスムーズできめ細やかな進路指導の実現を目指す。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会の年度2回の開催	7月と2月に学校運営協議会を開催	3月開催も含め、年間3回開催することができた。	総合学科開設や制服変更に向けての貴重な意見を頂戴できた。	引き続き協力する。	2月にも開催し、学校改善に向けた意見を頂戴する。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	地域の理解を深めたと実感できる生徒の割合80%以上	アンケートの自己評価により、実感できる生徒の人数50人以上	2年生「吉野熊野学」においては生徒の24名が地域の理解を深めることができた実感しているが、1年生にアンケートを実施できず、目標の50名を達成できていない。	1年生「総合的な探究の時間」においても地域に係るアンケートを実施し、学校全体生徒の地域学習について把握していきたい。	総合発表のレベルが上がるよう、教員の指導をお願いする。	年度末に2年生だけでなく、発表を視聴した1年生にもアンケートを実施する。
	地域の活性化に資する活動の推進	地域住民とふれあう活動ができた実感できる生徒の割合80%以上	地域住民にあいさつをできた生徒の割合が50%以上	地域の方にあいさつをしたり、話をしたりしている生徒の割合は80%以上であった。	コロナ禍の影響でほとんどできなかった積極的な交流活動も、今後は推進していきたい。	コロナ収束後の交流を期待する。	寮生が休日等に外出する際、出会った地域住民に進んであいさつをするよう促す。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校いじめ防止基本方針に基づく取組の推進	いじめは絶対に許されないと理解する生徒の割合100%	いじめは絶対に許されないと理解する生徒の割合100%	いじめは絶対に許されないと理解している生徒は100%であった。	いじめは許されないと感じている生徒は100%であった。	一人一人に居心地の良い学校づくりが必要。	いじめの被害者にも加害者にもならないよう、相手の気持ちを考えた行動や発言をするよう心掛けさせる。
	特別支援教育の推進	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	学期ごとに対象生徒の有無と状況の確認を実施	年度を通して、SCやSSW、特別支援教育支援員を活用し、生徒の状況確認に努めた。	個別の指導計画も複数の生徒に対し作り、計画的に支援を行う体制を整えていきたい。	教員が少なくなると大変だが、頑張ってもらいたい。	来年度も生徒の状況を察知できるよう、教員間の連携を高める。
	人権教育学習資料を活用したLHRの実施	・「なかまとともに」などを活用した、時代や生徒の状況に照らし合わせたLHRの実施 ・事後アンケートで「しっかり学習することができた」の回答80%以上	・各学年の人権に係わるHRの実施回数5回以上 ・年度末の人権に係わるアンケートで「しっかり学習することができた」と回答する生徒40人以上	・年間5回の人権HRの実施。しかし3学年は4回であった。 ・アンケートにより、人権の知識が増えた割合は62人、人権意識が向上した割合は58人になった。	人権の学習で人権課題に関する知識は増えているのにも関わらず、人権意識が向上していない生徒が数名いた。来年度以降、その差を埋めるような取り組みを考えていきたい。	人権学習を人権意識の向上に繋げてほしい。	より生徒の人権意識が高まるような取組を行ってほしい。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

1 1月時点ですべて目標値を達成している項目もあり、各分掌等での取組が評価できる。また、年度末にアンケート等を実施した項目についても概ね良好な状況であると判断できる。保護者アンケートの「十津川高校へお子様を入学させてよかったですか。」という項目で、そう思う、どちらかといえばそう思うという回答が1学期末には98.4%で、2学期には100%となり、保護者の満足度は高いと考えられる。3学期実施の生徒アンケートでも同様に89%の回答結果であった。また、2学期実施の授業アンケートも昨年の数値より良好な結果を示している。次年度は、各テーマで目標値に達しなかった項目について、令和6年度末に向けて計画的に取り組むとともに、コロナ関連の行動制限も徐々に緩和されると予測されるため、地域の関連団体と積極的に連携して学校運営に活かす。